

駅前広場の考え方

駅舎と広場を、ひとつの風景に。

駅舎デザインは、建物単体ではなく、伊那谷の山並みや木造の大屋根、広場の緑との見え方も含めて考えます。飯田市は、信州・伊那谷の風景と暮らしをつなぐ「結いの広場」をコンセプトに、地域の自然・歴史・文化を感じ、新たな交流と活力を育む以下のような駅前空間を計画しています。



木造の大屋根

地域産の木材を使った大屋根は、駅と駅前空間をつなぐシンボル。阿島傘や水引を思わせる意匠で、周辺の植栽になじむ心地よい居場所をつくります。



交流施設

屋上の展望テラスでは、伊那山地の風景やリニア駅舎などを望むことができます。



02

交流と日常の居場所

南北の交流広場では、伝統芸能、人形劇、祭り、イベントなどを想定。芝生と石積みを備えたコミュニティ広場は、くつろぎや催しに使える日常の居場所になります。



景観・環境・防災

伊那谷の山並みへの眺望を生かし、緑化舗装や雨水を地下へ浸透させる仕組みを整備。コミュニティ広場の一部は、イベント時にはステージや客席、豪雨時には調整池として機能します。



問い合わせ先

長野県南信州地域振興局リニア活用・企画振興課 TEL:0265-53-0401

飯田市リニア推進部リニア整備課 TEL:0265-22-4511(内線:3354)

長野県PRキャラクター「アルクマ」
©長野県アルクマ
JR 東海協力

リニア中央新幹線 駅舎外観デザイン案アンケート

未来への玄関口、 その姿を選ぶ。

リニア中央新幹線の長野県駅（仮称）は、人・地域・未来をつなぐ信州・伊那谷の新たな玄関口です。東京まで約45分、名古屋まで約25分。人やモノ、情報が行き交い、これまで以上に多くの交流が生まれます。訪れる人を迎え、地域の魅力を発信する拠点として、信州・伊那谷の新しい未来を支えることが期待されています。

今後、長野県・飯田市では、JR東海へ推薦するデザイン案を1案選定する予定です。みなさんと一緒に、未来の信州・伊那谷の玄関口となる駅舎について考えていきたいと思います。ぜひアンケートにご協力ください。



回答期間：令和8年10月1日[木] - 12月28日[月]

A 信州・伊那谷の風景に流れる「ひとすじの帯」 ~のびやかな風景、水平方向に広がる景観~



南側イメージ



北側イメージ

豊かな自然を「帯」の重なりで表現。アルプスの山々と「結い」の心、伝統工芸の繊細さとリニアへの期待を込めた、自然と調和する信州・伊那谷の新たな玄関口。

- 伊那谷の山並み、河岸段丘、天竜川といった雄大な自然の風景が水平方向に流れている様子を「帯」として表現しています。
- 水平方向に長く流れるデザインは、伝統工芸などからイメージする繊細さやリニア中央新幹線の疾走感を表現しています。
- 水平ラインが中央部で山なりになるデザインはアルプスの山並みと「結い」を表現しています。
- 外壁色は金属調の無彩色とすることで自然景観や駅前広場との調和を図るとともに未来感のあるものとします。

B 信州・伊那谷に包まれた「玄関口」 ~アルプスや伊那山地に包まれた谷地形、天竜川、伊那街道~



南側イメージ



北側イメージ

左右の壁面にアルプスや伊那山地の山並み、中央部に天竜川や伊那街道をイメージ。伝統工芸を思わせる繊細な縦ラインで、人と地域をつなぐ信州・伊那谷の玄関口を表現。

- 天竜川を中心に中央アルプスや伊那山地で囲まれた伊那谷の地形と「東国と西国」、「山と海」を結ぶ結節点として発展してきた地域の特性を重ねて「玄関口」として表現しました。
- 左右の壁面は中央アルプスや南アルプス・伊那山地の山並みを表現し、駅舎の中央部は天竜川を中心に各地を結ぶ結節点であるこの地に人々が集まってくる様子を表現しています。
- 縦ラインを細やかに連続させることで伝統工芸などの繊細さを表現しています。
- 外壁色は金属調の無彩色とすることで景観への調和に配慮するとともに、リニア中央新幹線の未来感を感じられる色とします。

C 信州・伊那谷の風景にゆらめく「自然のうつろい」 ~光と影のうつろい、天竜川のきらめき、風景の変化~



南側イメージ & 夕景イメージ



北側イメージ

季節や時間のうつろいによって表情を変える伊那谷の美しい風景をイメージ。光と影が織りなす豊かな表情に、自然のきらめきや伝統芸能の趣を映し出した、未来への期待を感じさせるデザイン。

- 季節や時間、天候の変化によって見え方が変わる伊那谷の景色の特徴を「うつろい」として表現しました。
- 多面的につなぎ合わせた外壁への光が刻々と変化し見え方が変わることで、雄大な自然が見せるきらめきや陰影、伊那谷の伝統芸能の特徴である光と影を表現しています。
- 多面的につなぎ合わせてできる立体的で幾何学的なイメージはリニア中央新幹線の未来感を表現しています。
- 外壁色は淡い山吹色などすることで朝や夕のうつろいをより感じられるようにします。

※各イメージ図は実際の完成形とは異なる場合があります。

これまでの経緯

令和8年（2026年）9月8日、JR東海から長野県及び飯田市に対し、リニア中央新幹線長野県駅（仮称）の駅舎外観デザイン案が3案提案されました。
これらのデザイン案は、「信州・伊那谷」の魅力や特色を表現するため、長野県と飯田市がJR東海に伝えたキーワードやモチーフ、外観デザインに関する要望を踏まえてJR東海が作成したものです。詳細は、右の二次元コードからご覧ください。



アンケート回答方法

- 回答方法**
- ① オンライン回答：右の二次元コードまたは下記URLからご回答いただけます。
<https://forms.gle/f1c6mWARSvQt9AW16>
 - ② 書面回答：飯田市の皆さんは飯田市役所および各地区の自治振興センターで、飯田市以外の下伊那地域の皆さんは、南信州地域振興局、各町村役場等に設置の回答用紙にてご回答ください（土日祝を除く）。



回答期間：令和8年10月1日[木] - 12月28日[月]

※このアンケートは駅舎外観デザインの推薦案選出の参考とするため実施するものであり、結果のみによって推薦案を決定するものではありません。
※回答は1人1回までお願いします。